

公の施設目標管理シート（直営）

問合せ先 025-269-3154

年度	平成26年度		
施設名	新潟市立坂井輪児童館	所管部・課	西区健康福祉課
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、及びその情操を豊かにすることを目的として設置する。		

当初予算(千円)		当初人員(人)		作成日	H26.5.21
歳入	11	正職員	0	修正日	H27.11.5
歳出	2,919	非常勤	5	評価日	H27.11.5

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価
			項目	H23実績	H24実績	H25実績	H26目標				
1	市民	より多くの児童に遊びの場を提供する。	利用者数	11,840	13,254	12102人	13000人	10874人		目標に達せず、昨年度実績を下回る。幼稚園のプレ入園が多くなったか、2歳児親子の来館が減る。小学生も秋以降の利用人数がかなり減った。	B
2		多方面から関心と興味、参加意欲を持ってもらう。	広報	62	62	月1回 年12回	月1回 年12回	館より月1回 区より月1回 その他随時 も行う	・近隣小学校新1年生への案内 ・区役所(西区)だより ・地域情報誌・フリーペーパー ・毎月のたより・ホームページ	イベントの申し込みなどは、区だよりが一番効果がある。館に常設しているたよりをもたっていく利用者は少ない。	A
3		利用者の満足度を高める。	苦情・要望への対応	10	10	5回	随時対応	2回	・アンケートボックスの設置 ・行事へのアンケート	アンケートボックスはほとんど利用がなかった。行事のアンケートについては利用者の要望を次回に反映させた。	A
4	業務	子育ての楽しさを啓発する。	子育て支援	95	100	103回	101回	95回	・ピヨピヨクラブ ・うさちゃんクラブ ・ベビーヨガ・子育て講座など	ベビーヨガや子育て講座への参加者が多いが、木曜日が発達支援のため、新たな講座の設定日がとれない。	B
5		心身ともに健全な成長を促進する。	年長児向け事業	19	14	14回	18回	16回	・クッキング教室・マジック教室 ・おたのしみ会・工作教室など	予定していた行事のうち、2回が人数が集まらず行えなかった。	C
6		発達の遅れが見られる乳幼児に、親子遊びなどを通して発達を支援する	発達支援			35回	42回	43回	・発達支援「だっこ」	10組の親子が支援をうけ、「だっこ」に通うことが出来て親子共によかった。という声があった。	A
7		災害時、利用者の安全を確保する	避難訓練の実施	1	1	1回	1回	2回	・消火訓練 ・通報訓練など	その日に来館した利用者とともに2回行う。消防署の職員から指導してもらい、利用者も協力的だった。	A
8	人材	様々な利用者の要望に応える。	職員研修の実施	6	12	21回	10回	12回	・研修会 ・他施設への実習、見学など	保育や発達支援関係の研修・見学に多く参加してクラブの活動計画や療育に活かすようにした。	A
9		急病・ケガなどに初期対応できるように努める。	普通救命講習の受講	1	1	1回	1回	1回	・救急法 ・AEDの使用法	消防署職員から講義を受けた。保護者の関心が非常に高かった。	A
10											

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価 (評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<ul style="list-style-type: none"> ・年長児へは遊びを通じて心身ともに健全な子どもに成長するように、日々の活動・事業などで支援していきます。 ・親子へは関わりの大切さや、子育ての楽しさを啓発していくための様々な行事を設定し、また来館しやすい居場所づくりに努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全利用者の減少は、特に2歳児親子と小学生の減少である。2歳児で保育園、こども園への入園に加え、幼稚園でもプレ年少組(満3歳の誕生日以降入園できる)への入園が次年度のスムーズな入園に繋がるとい声が多く聞かれ、入園させる保護者が増えている。また、次年度の入園が決まると決定園の支援センターへ通うという保護者も多い。小学生では、学童保育の利用年齢が上がったため、放課後学校開放の利用・近隣の小学生の減少も理由としてあると思う。 ・年長児向けイベントは、イベントにより参加人数に差が大きく、小学生がより興味を持つイベントを考えなければならないと思う。また、積極的に誘いをかけることも続けていかなければならないし、小学生が平日でももっと遊びに来たくなる環境を整えていきたい。 ・2歳児参加が減っている分、0・1歳児の保護者が安心して参加できるイベントや、ピヨピヨクラブの環境整備に努めたい。 ・近年増えている発達に問題を抱えることと親の支援は、非常に大切である。引き続き研修を重ねて、よりよい療育ができるようにしたい。